

令和6年度 福岡高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動（教科指導の充実）	
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と「主体的に学習に取り組む態度」の育成	
現 状	・評価観点の1つにある「主体的に学習に取り組む態度」を養うため、授業でも生徒の知的好奇心、学習意欲、探究心を引き出す工夫が求められる。授業改善を実現するために、生徒の実態に即した教科指導の充実・教育力の向上が求められている。 ・生徒の自主的学習習慣の定着を図るには、生徒の意識改革も必要となる。指導と評価の一体化を目指すために、教員個人の研究だけでなく、それを教員間で共有し意見交換することで学校全体の教育力の向上を目指すことも大切である。	
達成目標	① 互見授業の参観回数 1人3回以上 教科指導に関する教科部会の開催回数 4回以上（互見授業を含む）	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点（72.5%）
方 策	・年間随時、互見授業を実施し、相互に意見交換を行うことで授業改善につなげるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。 ・外部の研修会や研究会の研修内容や授業改善の取り組みなどを教科や学年で共有し、指導や評価方法等の改善に努める。	・授業や課題等、学習への取り組み状況について、生徒の自己評価を実施する。 ・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習や将来に対する意識を把握する。 ・学年担当で、教科バランスを考えて課題の内容や量を調整し、生徒の自主的学習が定着するよう工夫する。
達 成 度	① 互見授業の参観回数 ※（ ）は昨年度 1人あたり 3.5回(3.9回) 1学期 1.8回(2.1回) 2学期 1.7回(1.7回) 教科指導に関する教科部会の開催回数 （体育・英語は毎週実施、 芸術・情報は少人数のため除く） 1教科あたり 4.0回	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 ※（ ）は昨年度 1学年 2.9点/4点満点(2.9点) 2学年 2.9点/4点満点(3.0点) 3学年 3.2点/4点満点(3.1点)
具体的な 取組状況	・今年度から全学年の学習評価が観点別評価になり、授業の進め方も教科ごとに工夫がなされてきた。観点別学習評価に対応した授業スタイルも定着してきた。互見授業については教科外の授業を参観し、参考にする職員も増えている。 ・教科部会については、特定の教科は定例会をもち、指導を共有している。他の教科も必要に応じての部会をもち、情報交換した。	・3学年は3年間を通して高い満足度を維持している。授業や課題に対する取り組みもよく、落ち着いて学習に取り組んでいる様子がうかがえる。 ・1・2学年はほぼ例年並みの評価となった。日頃より生徒への声かけを通して、学習意欲の向上を目指している。
評 価	A	A
学校関係者の意見	学習意欲の向上については、生徒一人一人が就職や進学等、目標をはっきりと自覚することが大切。目標実現のために何をすべきか、何ができるかを考えることが学習意欲を高めることに繋がると思う。	
次年度へ 向けての 課 題	・全学年が観点別学習評価になり、教職員の評価に対する意識も変わってきた。評価観点を意識した授業への切り替えも少しずつ進んでいる。大学進学の受験科目となる教科にとって、大学受験を見据えた教科指導と観点別評価を意識した授業とのバランスをとりながら、進度を維持していくのは非常に難しく、教科内での情報交換は続けていく必要がある。 ・生徒の自己評価は、教科指導ではとらえきれない生徒の実態を把握する機会にもなっている。生徒の現状を理解し、生徒が意欲的に学習に取り組める環境を作るために、生徒の自己評価を教員評価ととらえ、教員の指導の見直しに役立てていく必要がある。	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和6年度 福岡高等学校アクションプラン —2—		
重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）	
重点課題	基本的生活習慣の確立と学校生活への適応	
現 状	・素直でおとなしい生徒が多く、平素からの挨拶が不得手な生徒が見られる。 ・自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が見られる。 ・思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。 ・普段の掃除に加えて、始業式・終業式の時には大掃除を、7月にはワックスがけを実施している。	
達成目標	① さわやかに挨拶しようと心がけた生徒の割合 90%以上	② 心の相談日や教育相談の実施 年間 15 回前後 ③ 特別清掃（大掃除やワックスがけ）の実施 年間 7 回以上
方 策	・自治委員による挨拶の働きかけ ・定期的（月 1 回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの働きかけ ・教職員側からのさわやかな挨拶 ・生徒指導部、学年、保健厚生部が連携し、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。 ・カウンセラーによるカウンセリングが必要な生徒を把握し、実施後には関係者と協議をする。カウンセラーによる講演会を実施する。 ・大掃除やワックスがけを実施し、生徒の学校美化意識を向上させる。	
達 成 度	① さわやかに挨拶しようと心がけた生徒の割合（よくできた・まあまあできたと回答した生徒の割合） 1 年 91%、2 年 93%、3 年 89% 全体 91%	② 心の相談日や教育相談の実施 年間 15 回（2/21、3/4 含む。） ③ 特別清掃（大掃除やワックスがけ）の実施 年間 8 回（2/28、3/5 含む。）
具体的な取組状況	・月 1 回（4 月～12 月）の挨拶・服装指導（正門・生徒玄関で生徒・職員合同で実施、部活動生徒も参加） ・6 月の高校生さわやか運動でのあいさつ運動（生徒会・PTA 合同で本校にて実施、小・中学校と合同で小学校にて実施）。あいさつ推進ポスター・横断幕の作成・掲示。 ・教職員側からのさわやかな挨拶	・月 1 回以上のカウンセリングの日を設け、スクールカウンセラー（SC）が悩みを持つ生徒と面談するとともに、必要な場合は、面談後に担任や学年主任を含めた個別指導会議や巡回指導員による面談を実施した。 ・入学式・卒業式の前日、保護者会や入試の前日などの節目には、大掃除や特別清掃を行い、普段は目の届かない場所を重点清掃項目として美化に取り組んだ。
評 価	A	A
学校関係者の意見	あいさつは、人と人との関わりの中で大切なことであることを社会に出てから実感している。今後も継続して活動を行ってほしい。	生徒によって抱えている悩みは異なり、カウンセリングの必要度も異なると思う。カウンセリングの回数については、必要に応じて臨機応変に行うとよい。
次年度へ向けての課題	・挨拶に対する意識が前年度と比べて高まってきたように感じる（前年度は 90%）ので、今後も継続して、気持ちよく挨拶を交わせる雰囲気作りを目指したい。 ・今年度は部活動の生徒が率先して参加し挨拶運動を展開した。引き続き次年度も取り組みたい。	・心の問題を抱える生徒に、教職員が保護者や SC、医療機関と連携して対応する教育相談体制の一層の充実を図りたい。 ・清掃は、概ね良好に行われている。大掃除やワックスがけを通して、教室の環境整備に努めさせるなど、美化意識をさらに高めるよう指導したい。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和6年度 福岡高等学校アクションプラン —3—

重点項目	進路支援（進路目標の設定とその実現）	
重点課題	進路意識の高揚と、納得のいく進路選択の実現、新課程入試への適切な対応	
現 状	・自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、主体的に考えることができない生徒がいる。 ・学期や学年の進行とともに進路意識を高められる指導と、新課程入試に臨む3年生には受験に向けた適切な支援を行う必要がある。	
達成目標	① 進路講話等による進路意識の向上 校内での進路講話等 各学年、年間2回以上	② 受験への取り組みに対する満足度 (卒業時：3年生対象) 満足：60%以上 不満：10%未満
方 策	・1年生に対し『職業人が語る会』を実施し、自己の将来について主体的に考える姿勢を伸長させる。 ・2・3年生に対し、本校を卒業した現役大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話を実施することにより、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育成する。 ・3月に、卒業した3年生が2年生に講話を行うことで、具体的な進路意識と学習意欲を高める。	・面接を通して生徒の進路希望を充分に把握し、受験校の選定や学習に対する助言・支援を行う。 ・新課程入試に関する新しい情報をいち早く正確に生徒に伝達する。 ・入試動向や校内テスト・外部模試の分析結果を、学年会や進路検討会等で情報を共有し、面接や教科指導等に生かす。 ・教科や小論文の添削、面接指導等の個別指導を、全校体制で計画的に実施する。
達 成 度	① 1学年 2回 2学年 3回（3月に＋1回予定） 3学年 2回	② 満足 67%(満足 28%, まあまあ満足 39%) 不満(やや不満 10%, 不満 4%)
具体的な 取組状況	・1年生は8月末に社会人、9月に外部講師により2回実施。2年生は8月末に大学生、12月に大学の先生、1月に外部講師により3回実施。3年生は6月に外部講師、8月末に大学生により2回の講話等を実施。 ・『進路ガイダンス』、『職業人が語る会』での身近な方の講話は、生徒の進路意識の高揚につながった。 ・大学の先生による模擬講義では、学問や進学に関して刺激を受けた生徒が多かった。 ・外部講師を招いての進学講演会（1、2学年）は、進路意識の向上につながった。	・担任による個別面接を、最低5回（1・2学期各2回、共通テスト後1回）実施し、生徒の進路希望の把握に努め、様々な助言等を行った。 ・7月、12月、共通テスト後に進路検討会を実施し、生徒の進路希望の共有化を図るとともに、担任が生徒により適切な助言が行えるように意見を出し合った。 ・生徒の進路目標実現のため、分担して個別添削指導（教科、小論文）や面接指導等を実施している。
評 価	A	B
学校関係者の意見	入試に関する情報は生徒が最も気にしている。今後も、新しい情報を正確に伝えてほしい。	
次年度へ 向けての 課 題	・進路および3学年担当教員は、共通テストの変更・学校推薦型選抜、総合型選抜による受験枠の増加など変化への対応に迫られたが、この経験を生かすとともに今年度の全国概況を分析し、生徒の進路実現を支援したい。 ・不満10%未満の目標は達成できなかった。早い時期から取り組まなかったことを悔やむ生徒が多かった。教員は早いうちから生徒が進学に関して意識するよう、こまめに働きかけを行う。また、3年時では個別面談を増やし、個々に必要な情報提供をするようにしたい。 ・大学生による講話は生徒に好評だが、近年インターンシップや就職活動の早期化の影響で8月末に講師を引き受けてくれる卒業生が見つけにくい。時期や方法の検討など必要性を感じる。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和6年度 福岡高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 活気ある委員会活動の継続と全校生徒の読書習慣の定着	
現状	・ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等を継続して行い地域貢献に努めたい。また、校内で行っている奉仕活動や花壇の整備も行い、他にできる身近なボランティア活動も考える。 ・図書館を学習の場として、多くの生徒が活用している。また、1、2学年との連携により、F Tでの読書時間を企画（1年生は毎週1回は読書、2年生は毎週1回は英字新聞を利用したF T）した結果、貸し出し数が伸びている。 ・この数年間目標としていた生徒による主体的な委員会活動の取組は、委員自身が自覚を持つようになり、委員を継続してくれる生徒が増加している。今後も委員生徒が、学習や部活動を図書委員会の活動とバランスよく実行できる体制を整えたい。	
達成目標	① “ボランティア活動に参加した” 割合 参加者 90%以上	②生徒の主体的な委員会活動による生徒の読書量(全校生徒の年間貸出総数)の向上 *参考総貸出数 R5:1285 冊、R4:1253 冊
方策	・ボランティア委員会を中心に、校内でも行える活動を考えつつ、並行して外部からのボランティアの紹介を幅広く行い、参加者を募る。 ・災害募金活動等、全校生徒が情報を得やすい活動から取り組み、ボランティアについての知識や理解を深める。また、参加後の意識調査を行う。	・図書委員会での話し合いを通して、読書の在り方と啓蒙活動の推進を図りたい。具体的には、「図書館だより」「店頭購入」「読書会」などで、魅力ある情報の発信力を高め、生徒がより気軽に読書に親しむ機会を多く設けたい。 ・図書部内での話し合いと連携をさらに図り、業務内容の改善に努める。
達成度	ボランティア活動に参加した割合 97.9%	参考総貸出数 R6: 886 冊(1月時点) R5:1185 冊(1月時点)
具体的な取組状況	・奉仕活動（学校単独） 通学路や学校周辺の清掃活動を実施。 ・募金活動（昨年に続き行う） 学校祭で赤い羽根共同募金を呼びかけ、集まったお金を団体へ送金したり、能登半島地震で被災された方への募金を呼びかけ、集まったお金を富山県善意銀行に送ったりした。 ・ベルマーク収集 集まったベルマークを集計し団体へ送った。 ・つくりもんまつりへの参加、清掃 美術部は作品制作、清掃にはボランティア委員と生徒会が参加した。 ・高岡聴覚総合支援学校訪問演奏会 演奏とダンス、手話コーラスで交流を予定している。	・生徒が主役となり図書委員会の活動が行われている。とりわけ、学校祭恒例の古本市「来ぶらり（らいぶらり）」は、図書委員生徒からの要望により実現し、たくさんの来場者と売り上げがあった。 ・各学期末に発行の「図書館だより」は、1学期は3年生図書委員が、2学期は2年生図書委員が、3学期は1年生図書委員が中心となって編集している。 ・読み聞かせボランティアは、例年、図書委員以外の生徒からの参加希望がある。大変嬉しいことである。参加者がそろそろ日程での練習時間が思うように取れず、準備段階では少し苦労したものの、当日は、充実した表情を見せていた。このように生徒の主体的活動が昨年以上に活発に行われたにもかかわらず読書量は昨年より減少した。
評価	A	C
学校関係者の意見	ボランティアによって地域行事に関わることで、地域が元気をもらっている。小中高の児童生徒がボランティア活動を通してふれあう機会を持つことは大切である。中学生に福岡高校の良さを伝えるよい機会であると思うので今後も続けてもらいたい。図書委員会活動が主体的に活発に行われて良い。読書への関心が高まるような取り組みを考えて、生徒に参加を促すようにすればどうか。	
次年度へ向けての課題	・ボランティア活動では、ボランティア委員会を中心に「清掃活動」「地域活動への参加」「募金活動」など積極的にクラスへ投げかけ学校全体で取り組んだ。参加する生徒たちが昨年よりも増えたり募金額も増えたりと成果を感じた。来年度に向けて、全生徒が関心をもってくれるようなピーアールの方法を工夫して理解を深めていきたい。 ・今後は図書委員生徒が意欲的に委員会活動を行うなかで、いかにして読書量を増やす活動に結びつけていけるかを考えていきたい。	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和6年度 福岡高等学校アクションプラン —5—	
重点項目	その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）
重点課題	・CAN-DO リストを有効に活用し、英語の4技能をバランス良く伸ばす。 ・語学研修等を通じて英語実践力を高め、国際的な視野を持った人間を育成する。
現 状	・英語を使った日常会話レベルの対話は、ペアワークやグループ内で出来るようになってきているので、これからは話題に応じて、より深く、より詳しく、自分自身の意見や考えを表現できる段階に移行する必要がある。 ・英国語学研修に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、代替研修としてニュージーランドとのオンライン海外研修や、British Hills のオンライン研修を実施してきたが、昨年度5年ぶりに再開することができた。ただ、物価高騰や円安等の国際社会状況により経費がかなり増加したため、以前よりも期間を短縮して実施した。 ・ICT を積極的に導入するとともに、英語コースで培ってきた学習方法や言語実践活動を文系・理系すべての生徒にも授業実践を行っている。
達成目標	①実用英語技能検定の取得率 2年終了時まで 準2級以上 80% 英語コース3年終了時まで 2級以上 90% ②GTEC（コミュニケーション能力テスト）の得点 1年 690点以上 80% 2年英語コース 810点以上 80% 3年英語コース 900点以上 70% ③英国語学研修参加生徒の充実度 研修全体を通して“とても良かった”割合 80%以上
方 策	・CAN-DO リストに基づき、各学年における学習目標を明確に提示する。また、その成果を各種の検定結果を活用して、客観的な指標で測定や検証を行う。 ・国際社会状況の影響を受ける中でも、経費負担を考慮しながらより充実した研修内容となるように企画検討する。 ・研修の事前、事後の指導やアンケートを実施し、単発のイベントで終わらせず、更なる学習の動機付けとなるようにする。
達 成 度	① 準2級以上 81% 2級以上 79% ② 1年 71.7% 2年 92% 3年 76% ③ 94.7%
具体的な取組状況	・英語検定は、できるだけ2年1学期までに準2級を取得できるように受検を促している。また、一次合格者全員を対象に二次面接指導を行い、全員が合格できるように支援している。 ・コロナ禍で実施できなかった英国語学研修を昨年度再開した。国際社会状況により研修期間は3/1(土)～3/10(月)の10日間と昨年同様で、コロナ前より短くなっている。選考会議を経て1年生9名、2年生10名の計19名の生徒が参加することとなり、現在事前研修に励んでいる。 ・英国語学研修参加生徒には、17回の事前研修（研究発表を含む）を計画的に実施している。事前研修を通して、参加生徒（団員）の相互理解と連帯の強化を図っている。
評 価	① B ② B ③ A
学校関係者の意見	学習目標の明確な提示があることで、英語学習に集中しやすくなると思う。今後も、英語コースのある学校として、英語については特色のある活動を継続して行ってほしい。
次年度へ向けての課題	・検定の結果を入試で活用できることなど、資格取得のメリットを生徒に伝え、資格取得に積極的に取り組むよう意識付けたい。また資格取得に向けての勉強を通して、着実に英語力を身に付けさせたい。 ・国際社会状況を見極めながら、英国語学研修が少しでも生徒にとって充実した内容となるよう検討を続けていきたい。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）